

気象研究所三上主任研究官が友誼賞を受賞

友誼（ゆうぎ）賞とは中国政府が、社会開発、経済、科学技術、教育、文化等の発展に貢献した外国の専門家や専門家組織の責任者に授与する最高の賞であり、1991年に創設されたものです。

三上正男主任研究官は、中国と日本の科学技術協力（共同研究）に対する顕著な功績により、2004年友誼賞（中国政府が授与する賞）と2004年天山賞（新疆ウイグル自治区が授与する賞）を受賞しました。友誼賞授賞式は、9月29日に北京の人民大会堂にて開催され、中国政府の指導者から授与されました。

気象研究所は、日中共同研究「砂漠化機構の解明に関する研究」（科学技術振興調整費、平成元年～平成5年）に参加し、平成12年からは「風送ダストの大気中への供給量評価と気候への影響に関する研究」（科学技術振興調整費 平成12年～16年、日中共同研究プロジェクト名 ADEC (Aeolian Dust Experiment on Climate impact)) に日本側代表研究機関として参加しています。

三上主任研究官は、タクラマカン砂漠における現地観測を中心に、10年以上中国における研究活動を続けており、平成12年度からは日本側の研究代表者として日中共同研究プロジェクト ADEC の推進に尽力しています。本共同研究は、ネットワーク観測により東アジアの黄砂の実態を明らかにするなど世界的な研究業績を着実に上げており、今回の表彰は、これらの功績が認められたものです。



元政治局常務委員 宋平氏よりメダルと楯の授与を受ける三上主任研究官

注1： 風送ダストとは、大陸の乾燥域から強風により大気中に舞い上がる鉱物質の微粒子をさし、東アジアから偏西風に乗って日本まで運ばれる風送ダストは黄砂と呼ばれています。

注2： 日中共同 ADEC に関する情報は <http://www.aeoliandust.com> を参照下さい。